



Nakamura
(株)ナカムラ



会長の中村直人さん



代表取締役の中村公一さん



湯もみが施されたあと、吊るして干されているグローブたち。

ボールを取るプレイヤーのことを考
えながら、湯もみ加工を施します



オリジナルグローブに使用される牛皮。一頬丸ごと仕入れるため、手前は柔らかい皮、奥は硬い皮が使える。部位ごとのそれぞれの良さを活かし、グローブにこだわります。

街のスポーツ・ゼンジ店舗
ポーツ、昭和25年（ナインティエフイブ）年）10月に中村義直さんが衣料品店を営んでいたところから始まります。当時はまだスポーツ用品の取り扱いは、2割程度しかなかったのです。スポーツ用品をメインで取り扱うようになったのは、現在会長の直人さんになつたのが、元の会員になってからです。当時は、体育授業は体操服で行われるもの」という現状では当たり前の文化がまだ生まれていなかつたと言います。ちょうどその頃、京都高校で体操服が導入されるようになり、徐々に体操服の文化が広がつてきました。「当時、商店街で車を所有していたお店はほとんどいませんでした。弊社はほどなく所有していました。車を入れてしまった、「営業に走り回っていた頃を思い出します。語ってくれたのは直人さん。現在は3代目の公一さんが代表と

ボーットで見落とさず、ぱっと見れば「オーバーイング」と「オーバーハンド」の違いを定着させたのが「オーバーハンド」です。公一さん自身も高校時代に県大会で2度出場するほどの野球の腕前。そんな公一さんが手掛けるグローブのオリジナルブランド「Lone Star」は、現在全国からオーダーが入る主力商品となっています。そこで、ブレイヤー一人ひとりの手に馴染ませることができる点が特徴です。「特に小さなお子さんは、新商品の硬いグローブだと上手くボールが取れず、面白くない。手に馴染むことで、上手くホールドを取ることができる」と、生まれ野球が楽しくなる、好きになれる。また、大人の場合は子ども用よりも同じように作ると消耗が早い。誰が

70th Anniversary 共に CLOS



戸 建て住宅のほか、中小学校や
県営住宅等公共工事も手掛け
る有限会社カワイ建設。昭和19年
（1944年）10月1日設立。10月
月号発行日に70周年を迎える企業で
す。現在代表取締役を務めるのは、
物腰柔らかで穏やかな川本博文さん。
隣でしっかりと支えるのは、会
社の事務仕事をこなす妻、文さん。
博文さんは父、「一さんの後を継ぎ
2代目」。創業当初は苗字を取って「川
本組」だったそうです。現在の社名は
「有限会社カワイ建設」。これ
を聞いて、「ピント来た方もいらっしゃ
るでしょうから、川本さんにな
ぜ「カワイチ」なののか疑問に思つて
いましたが、そうです。苗字の「川
の字と、お父様の名前「一」さんの
文字を取って「カワイチ建設」とい
なつたのです。当時、カタカナ表
記の社名は珍しかったと言いま
す。

泉小中、仲津中、今川小、中京中の校舎や体育館等、市内の多くの多くの建設現場に携わってきた川本さんですが、泉中校舎建設時、稀に見る大雪でコンクリートが乾かず、バーナーで乾かしたとういう苦労話もありました。

建設業に留まらず、博文さんのエピソードは地域貢献へと続きます。今年は台風10号の影響で、残念ながら中止となつた夏祭り「こすもんつべ」ですが、博文さんは市制40周年の「一夕千秋4年」までの実行委員長を務めており、当時の「灯山」の設計にも携わっていました。夏の夜を優しく照らす灯山、博文さんの地域貢献やモノづくりへの想いがそこに込められていました。

大きなイベントだけではありません。区長としても17年間地域をせん。

UP
70年、そしてこれからも—

10月10日に市制70周年を迎える行橋市。70年の時を共に歩んできた企業をクローズアップ。

見守る博文さん。文さんも民生委員を担うなど、夫婦で地域に根差した活動を行っています。博文さんは長年区長を務める大丸区役所は、コロナ禍で中止となっていたゴールデンウイークのお祭りを今年は数年ぶりに開催。以前は地区内の各お宮で行われていたお祭りですが、子どもの人口が減少したところから、一か所に集約して開催しているそうです。今年も踊りややどりも縁日、菓子や餅投げ等が行われました。「こすもぼべの実行委員会長を担つたときもそうでした。従来どおりにやる方が楽ですが、やるからにはより良いものにしていくと、常に改善・改良する気持ちを忘れません。」と職人気質な博文さん。「地区のお祭りも、伝統や文化を後世に繋いでいくために、その時代に合わせて形を変えながら開催しています」とお話ししてくれました。

建設業として地域に関わるだけではなく、長年に渡りこすもぼべや地区的お祭り等積極的に関わってきた博文さんですが、会社が市と同じく70周年を迎えるだけではあります。なんと、博文さん自身も今日70歳（古希）を迎えます。博文さんは自身がまさに市と共に70年を歩んでこられています。一歩橋での70年間を振り返ると、やはり印象的だったのは土曜日の夜市です。わくわくして出かけた子どもの頃の思い出ですが、今でも鮮明に残っています。あの頃のような活気を街中や地区で感じられるような市になつていいって欲しいと思います。」と、今後の行燈への期待をお話してくれました。



代表取締役の川本博文さん。
23歳から40歳にかけて美夜古青年会議所に所属。その後も商工会議所青年部で3年間会長を務める等、積極的にまちづくりに参加してきました。



妻の川本文さん。
多忙なご主人を、縁の下で支える頼もしい存在。民生委員
も務め、地域の方々の支えとしても活躍されています。



2024.10.1 | 28

馬前通 前通りで化粧品店を営む有限会社みつぎ。昭和28年(1953)4月に設立され、71年になりま

駄前通りで化粧品店を営む有限会社。4月に設立され、71年（一九五三年）になり、4代目の山口英子さんが代表を務めています。創業者である英子さんの曾祖父の代では、小物や雑貨を取り扱う商店で、化粧品を取り扱い始めたのは祖父母の代からだそうです。戦前から化粧品を取り扱っているお店は市内では大変珍しく、現在は化粧品界を牽引する駆者とも言えます。一九六〇年代からは化粧品専門店へシフト。戦後のこれから明るい社会を願う女性たちに、元気を与えていたと言います。現在は娘の一枚さんと経営をされていますが、一枚さんは市内でいち早く化粧品を取り扱い始めた先祖についてこう話しました。「大きななチャレンジだったと思いますが、特に祖母の先見の明にはとても尊敬します。

A photograph showing a person from the waist down, wearing a white and black horizontally striped long-sleeved top and a dark blue plaid knee-length skirt. They are standing on a sidewalk next to a black A-frame sandwich board sign. The sign has text on both sides, though it's not clearly legible. In the background, there's a building entrance with red signage.

Mitsugan
(有)みつぎ



左2人：英子さんのご両親



代表取締役の山口英子さん



娘の山口一枝さ

今 回のクローズアップでは、
70年の時を行橋と共に歩み
んできた企業を特集しましたが、
どの企業も根底に「行橋への、同
じ地で、生業を続けていくことは
容易いことです」はありません。何
もしなくともモノが売れる、土
地が売れる、そんなバブル期は、
あれば、リーマンショックや近
年のコロナ禍等、人が出歩かない
、モノを買わない…。そ
な時代を全般乗り越えてきた70
年後、今更ながらとい
う理由だけではなく、それぞれに行橋へ
の愛があり、地域への想いがあ
り、思い描くこれから行橋像
があり、この地で生業を続けて
います。地域に根差した企業だか
らこそ出来る、きめ細やかな

2024.10 | 30